

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況 (当期の業績の概況)

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
平成29年3月期	77,351	7,617	8,183	5,566
平成28年3月期	75,078	6,594	7,415	6,383
増減率	3.0%	15.5%	10.4%	△12.8%

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界経済の不確実性等の懸念がある中、企業収益の堅調な推移や雇用環境の改善等を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。また、当社海外グループの事業エリアであるアジア経済は、全体的に減速感がみられるものの、緩やかな拡大傾向で推移いたしました。

このような経済状況のもと、当社グループは持続的な成長の実現に向け、「コア事業である男性グルーミング事業の持続的な成長」「女性コスメティック事業の展開スピードのアップ」「成長エンジンである海外事業の継続強化」に取り組みました。

売上高は、前期より22億72百万円増加し、77億351百万円（前期比3.0%増）となりました。男性グルーミング事業の「ギャツビー」ブランドが堅調に推移したことに加え、女性コスメティック事業の「ビフェスタ」ブランドが順調に推移した結果、7期連続で過去最高売上高を更新しました。

利益面においては、日本におけるマーケティング費用（販売促進費・広告宣伝費）の積極的な投下があったものの、原価率低減ならびにインドネシア子会社の業績回復による増益により、営業利益は、前期より10億23百万円増加し、76億17百万円（同15.5%増）、経常利益は、前期より7億68百万円増加し、81億83百万円（同10.4%増）となりましたが、前期はインドネシア子会社における固定資産売却益の計上があったことから、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期より8億16百万円減少し、55億66百万円（同12.8%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。（売上高は外部顧客への売上高を記載しております。）

(当期のセグメント別の概況)

(単位：百万円)

所在地別業績	売上高			営業利益		
	前期	当期	増減率	前期	当期	増減率
日本	44,104	45,945	4.2%	4,704	5,077	7.9%
インドネシア	18,164	18,323	0.9%	880	925	5.1%
海外その他	12,809	13,081	2.1%	1,008	1,614	60.0%

日本における売上高は45億945百万円（同4.2%増）となりました。これは主として、「ビフェスタ」ブランドや男性グルーミング事業の「ルシード」ブランドの好調な推移によるものであります。利益面においては、主としてマーケティング費用（販売促進費・広告宣伝費）の積極的な投下があったものの、原価率低減により営業利益は5億77百万円（同7.9%増）となりました。

インドネシアにおける売上高は18億323百万円（同0.9%増）となりました。これは主として、インドネシア国内において「ギャツビー」ブランドが好調に推移し、女性分野での減収をカバーしたことによるものであります。利益面においては、主として前期の火災事故からの復旧により、営業利益は9億25百万円（同5.1%増）となりました。

海外その他における売上高は13億81百万円（同2.1%増）となりました。これは主として、円高により円換算額が減少したものの、各社とも概ね堅調に推移したことによるものであります。利益面においては、主として販売費の減少により、営業利益は16億14百万円（同60.0%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末における流動資産は541億30百万円となり、前連結会計年度末に比べ26億74百万円増加いたしました。これは主に有価証券が19億99百万円、商品及び製品が12億58百万円増加したことによるものであります。固定資産は297億4百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億39百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が6億81百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、838億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ40億13百万円増加いたしました。

(負債)

当連結会計年度末における流動負債は101億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億86百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が2億2百万円減少したことによるものであります。固定負債は40億67百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億66百万円増加いたしました。これは主に退職給付に係る負債が2億28百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、142億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億79百万円増加いたしました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、695億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ37億34百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する当期純利益55億66百万円及び剰余金の配当19億40百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は75.4%（前連結会計年度末は74.8%）となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前当期純利益が83億77百万円（前年同期比21.7%減）と減少したものの、売上債権の増減額の減少、短期借入金の返済による支出の減少等の要因により、前連結会計年度末に比べ6億79百万円増加し、当連結会計年度末には128億80百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は90億45百万円（同25.1%増）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が83億77百万円、減価償却費が31億65百万円及び、法人税等の支払額23億11百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は59億20百万円（同148.5%増）となりました。これは主に、有価証券の売却及び償還による収入177億円がありましたが、有価証券の取得による支出196億99百万円、有形固定資産の取得による支出33億1百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は22億15百万円（同37.3%減）となりました。これは主に、配当金の支払額19億39百万円等によるものであります。

(4) 今後の見通し

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
平成30年3月期	80,000	8,000	8,500	5,600
平成29年3月期	77,351	7,617	8,183	5,566
増減率	3.4%	5.0%	3.9%	0.6%

今後のわが国経済は、雇用・所得環境の改善、各種政策の効果を背景とした緩やかな回復の継続が期待されるものの、世界経済の不確実性の高まり等、先行き不透明な状況が続くものと思われま。アジア経済も、緩やかな拡大が期待されるものの、景気の下振れ懸念等、先行きの不透明感が増しております。

このような状況のもと、当社グループは、男性事業の維持拡大、女性分野のさらなる強化、インドネシアを中核にした海外事業の強化に努めることにより、増収を目指すとともに、ブランド価値向上に向け積極的なマーケティング費用の投下を行っていくものの、継続して原価低減活動や販売費及び一般管理費の効率化を推進することにより、各段階利益での増益を目指してまいります。

なお、業績予想値は主要な為替レートとして110円/米ドル、13,200ルピア/米ドル、0.0083円/ルピアを前提として算定しております。

以上により、次期の売上高は800億円(前期比3.4%増)、営業利益80億円(同5.0%増)、経常利益85億円(同3.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益56億円(同0.6%増)の見通しであります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性および企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。